

最高の現場力

鴻池組CSR報告書 2016 [ダイジェスト]



本社・大阪本店	〒541-0057	大阪府大阪市中央区北久宝寺町3-6-1
東京本店	〒136-8880	東京都江東区南砂2-7-5
北海道支店	〒060-0061	北海道札幌市中央区南一条西14-1
東北支店	〒980-0021	宮城県仙台市青葉区中央2-9-27
横浜支店	〒231-0013	神奈川県横浜市中区住吉町4-45-1
名古屋支店	〒460-0003	愛知県名古屋市中区錦2-19-1
京都支店	〒604-0857	京都府京都市中京区烏丸通二条上ル蒔絵屋町267
神戸支店	〒650-0024	兵庫県神戸市中央区海岸通4
広島支店	〒730-8533	広島県広島市中区八丁堀2-31
山陰支店	〒690-0887	島根県松江市殿町516
九州支店	〒810-0041	福岡県福岡市中央区大名1-14-45
南九州支店	〒892-0825	鹿児島県鹿児島市大黒町2-11
海外支店	〒136-8880	東京都江東区南砂2-7-5
技術研究所	〒305-0003	茨城県つくば市桜1-20-1

本報告書の環境配慮について

用紙は、適切に管理された森林から出荷された木材を含む森林認証紙を使用し、インクは、VOC（揮発性有機化合物）の発生を低減する大豆油インクを使用、有害廃液を排出しない水なし印刷方法を採用しています。



鴻池組の 企業理念ピラミッド



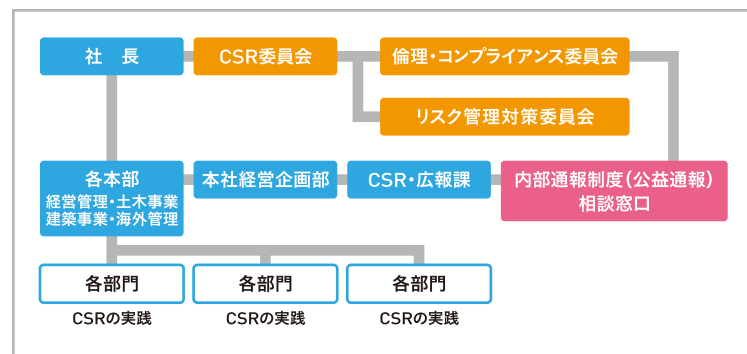
私たちの CSR

私たちは、社会を構成する一員として、常に高い志を持ち、責任と自覚を持った誠実・公正な行動を心がけます。そして、鴻池組に関わる全ての人々からの信頼を獲得し、常に社会から必要とされ、社会に貢献できる会社を築いていきます。

社是三則を頂点とする鴻池組の企業理念ピラミッドの根底には、CSRの理念があります。公正な企業活動を通じて、鴻池組を取り巻く様々な人々との信頼関係を育み、良好な関係を保つことがCSRの基本です。そのためにも、私たちは「誠実、懇切、敏速」の社是三則および「顧客満足、もの創り、人財創出」の経営理念を支える三つの礎「信頼の礎」「貢献の礎」「繁栄の礎」を行動指針として定めています。これまで培ってきた建設という「もの創り」の技術と経験を活かして、人々が豊かで安心して暮らせる社会に資すること、それが「私たちのCSR」です。

CSR推進体制

CSR推進体制図



鴻池組のCSR推進体制は、社長を委員長とし、関連役員をメンバーとする「CSR委員会」を中心に構築しています。同委員会は、CSRの取り組みに関する施策などの意思決定機関として、CSR推進活動の定着と継続を図っています。さらに「CSR委員会」の下部組織として「倫理・コンプライアンス委員会」、「リスク管理対策委員会」を設置し、CSR推進活動を総合的に実践する体制を整えています。また、CSR推進専任部署として本社経営企画部に「CSR・広報課」を設置し、CSR推進計画の策定、CSR推進体制の継続的改善、CSRに関するモニタリング、CSR関連委員会の運営、CSRに関する社内啓発活動など、専属者による部門横断の取り組みを企画、実行しています。

編集方針

鴻池組は協会の皆様と「チームKONOIKE」として一丸となり、「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に!」をスローガンに掲げ、社会へ貢献していくことを目指しています。CSR活動についてはウェブサイトを中心に報告媒体としていますので、本冊子は「最高の現場力」をテーマとした活動を紹介させていただくダイジェスト版です。

対象期間 2015年度(2014年10月1日～2015年9月30日)

社長メッセージ

鴻池組は、
最高の現場力をもって
お客様の笑顔を
最大にできる会社です。

代表取締役社長

高田 守弘



社会と共に“豊かな地球”
“輝く未来”を築きます

- 私たちは“お客様”を第一に考える『顧客満足』こそ信頼の礎
- 私たちは“技”を磨き続ける『もの創り』こそ貢献の礎
- 私たちは“輝く人”を育てる『人財創出』こそ繁栄の礎

鴻池組は「誠実、懇切、敏速」の社是三則のもと、2014年度に新たに策定した経営理念により「顧客満足」「もの創り」「人財創出」を重点ターゲットとして事業を推し進めてきました。この経営理念を支えているものはCSRですが、2015年度は経営理念の実践にはコミュニケーションが不可欠であると考え、お客様をはじめとする様々なステークホルダーの方々との「コミュニケーション」の充実に取り組んできました。2016年度は、さらに「スマイル」をキーワードに追加しました。ステークホルダーの方々との対話を充実させることが「最高の現場力」の発揮につながり、そこにはすべての人々が「スマイル」になっていくという考えを持っています。これはまさに鴻池組のスローガンである「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に!」を実践していくものです。そして「スマイル」による「コミュニケーション」の活性化が「最高の現場力」を発揮する、こういった好循環を目指しています。

さて、東日本大震災からの復興が進む中、鴻池組も多くの事業に取り組んでいます。災害復興住宅の建設では、津波被害を受けた地域で今後も安心して暮らせるよう、最高の現場力を

発揮して建築物を設計・施工しています。(P5.6参照)

また、2014年8月に広島市北部を襲った豪雨は、大規模な土石流を発生させ、甚大な土砂災害をもたらしました。鴻池組は東日本大震災での災害廃棄物処理の技術と経験を最大限に活かし、この災害で発生した廃棄物の処理業務を通じて、復旧・復興に協力しています。(P7参照)

さらには、鴻池組と協力会社によって最高の現場力を発揮する「チームKONOIKE」の一体感をさらに高めるために、パートナーシップを強化しました。(P12参照)

自然災害から国土を守るインフラ整備や老朽化インフラへの対策など安心安全に暮らせる社会の実現、そして東京オリンピック開催に向けた競技施設や交通網の整備など、今、建設業界には非常に大きな期待と関心が寄せられています。これは言い換えると社会に対して大きな責任を担っていることでもあるのです。鴻池組は、建設業界の一員として建設業のさらなる魅力向上に取り組む、これからも最高の現場力によってこの責任を果たすことで社会に貢献していきます。



最高の現場力

街に笑顔を

地球に優しく

循環型社会に向け

みんなの想いを

安全な水を

新しい技術で

最高のチーム

鴻池組は「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に! Our Best Solution for Your Best Smile!」をスローガンに協賛会社と「チームKONOIKE」を結成しています。
ひとりひとりの取り組みがチームとして一丸となった瞬間に発揮される「最高の現場力」、これはステークホルダーの皆様の想いをかなえる力です。

TOPICS

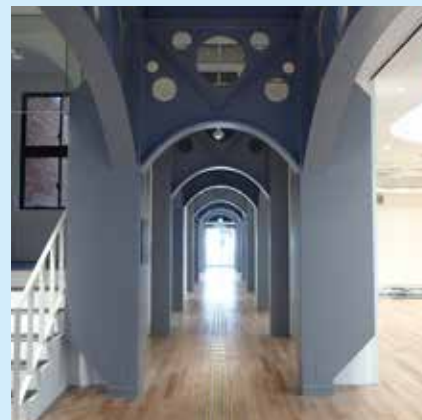
第56回BCS賞を受賞 ~北九州市立戸畑図書館~

鴻池組JV施工の北九州市立戸畑図書館が第56回BCS賞を受賞しました。同建物は1933年に戸畑区役所庁舎として建設(鴻池組施工)され、2006年まで戸畑区役所として使用されました。2011年に図書館への転用が決定され、リファイニング建築の提唱者である青木茂氏および構造設計家の金箱温春氏の設計により、重厚な外観を保つために内部に耐震補強としてスチール製の

アーチフレームが採用されました。2012年12月から改修工事を行い、2014年3月に『北九州市立戸畑図書館』としてオープンしました。



改修後の建物外観



アーチフレームによる耐震補強

TOPICS

修復業務を受託・施工した「橋野高炉跡」が世界遺産に登録

岩手県釜石市の「橋野鉄鉱山・高炉跡」を含む「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業遺産」がユネスコ世界文化遺産へ登録されました。鴻池組は、東日本大震災により被災した「橋野高炉跡」の一番高炉修復業務を受託・施工しました。修復工事は修復前後の測量調査と積石の解体、洗浄、補修(接着や補強)を行い、損傷前の状態に復元するため積石の組立を実施しました。鴻池組では、今後も歴史的遺産の保存・修復に役立てるよう努めて参ります。



修復着手前
(積石の落下やズレ・割れがある)



修復完了後
(積石は解体し洗浄補修後、組立)

CONTENTS

私たちのCSR 01 / 最高の現場力・TOPICS 02・03 / 社長メッセージ 04 / 建築「多賀城市での取り組み」 05・06
土木「広島市・長崎市での取り組み」 07・08 / 環境技術 09 / 海外「サモア独立国での取り組み」 10 / 安全環境 11 / 人財 12



安心して住みやすい街を1日も早く

多賀城市での災害公営住宅の建設

多賀城市鶴ヶ谷地区災害公営住宅建設工事

2011年3月11日、東日本大震災による津波によって、宮城県多賀城市は市内の3分の1が海水に浸かる甚大な被害に見舞われました。鴻池組は多賀城市での災害公営住宅建設に、協力会社とともに「チームKONOIKE」として現場力を発揮しています。被災された方々が本来の生活を

取り戻すために1日も早く竣工し、快適で安心・安全な住宅はもちろん、より地域の絆を深めることのできる建物を造ることが使命です。それは鴻池組だけではなく、この事業に携わる多くの方々のお力添えにより成り立っています。

コンセプトと4つの基本方針

「みんなとふれあい 地域の未来をともに作りあげる」

- 1 災害に強いまち
- 2 居住者も地域もみんながふれあうまち
- 3 みんなが健康で快適にらせるまち
- 4 周囲になじむ開放的なまち



完成予想パース

多賀城市鶴ヶ谷地区
災害公営住宅建設工事
佐藤 正 所長



信頼と経験が新たな街を生み出す

現在、桜木地区に続き鶴ヶ谷地区の災害公営住宅を施工しています。これまでのプロジェクトでより強固になった「チームKONOIKE」としての信頼と経験を活かし、さらに良いものを工期内で完成させるべく、日々努力しています。桜木地区の施工時は人員確保にかなり苦労しましたが、協力会社との連携により、無事に工期内で完成させることができました。この強固な信頼関係をもって工事を円滑に進め、新たな生活を明るく楽しく過ごしていただけるような住宅を建設して参ります。

多賀城市桜木地区災害公営住宅建設工事
2014年10月竣工



震災の教訓をふまえ、津波に備えて住戸を2階以上に配置し、ベデストリアンデッキで連結することによって自由な往来を可能にしています。約2,000人が1次避難できる津波避難ビルとしての機能はもちろん、保育所・高齢者生活相談所も併設。また、居住者が集まることのできる「みんなのリビング」を設けるなど、豊かなコミュニケーションを図れる住宅を目指しました。



住民代表 桜木住宅自治会の皆様

バリアフリー構造なので高齢者や車椅子の方でも快適に過ごせます。また、併設されている保育所から子供たちの声が聞こえると、未来への希望を感じると共に安心した気持ちになります。我々自治会では様々な所から集まった住民の方が互いに結束を強め、地域の皆様と助け合っていけるよう、住民と地域の方が交流できる様々な催し物を企画・実行しています。今後も「みんなのリビング」などのコミュニティスペースを有効活用して、より多くの入居者の皆様に集まっていたり、より快適に、明るく過ごしていただけるような活動を積極的に進めて参ります。

多賀城市建设部
副理事兼復興建設課長

熊谷 信太郎 様



コミュニティを重視した施設を設けることで地域の方々がお互いに助けあう機会を増やし、街全体を活性化させていくまちづくりを具現化できました。桜木地区の集会所で市民防災会議を開催した際には、近隣の方々が施設の災害設備の安全性について理解を示し、そして防災意識を共有して下さったことが印象に残っています。

多賀城市での第1号の災害公営住宅の建設であった桜木地区の工事では、困難な状況にもかかわらず工期を守っていただいたので、現在建設中の鶴ヶ谷地区については高い信頼を持って任せることができている。様々な想いが込められているこの施設が母体となって、居住者や地域の方々、企業や市が共に積極的にまちづくりを目指すことが我々の復興であり、それを持続させていかなければならないと感じております。

※多賀城市の災害公営住宅建設工事は、市から要請を受けた都市再生機構が進めています。

都市再生機構 東日本都市再生本部
密集市街地整備部
密集市街地整備第1チーム チームリーダー

鴨志田 京子 様



震災からの災害公営住宅として、できるだけ早く被災者の方にお住まいを提供したいという想いから、震災直後の厳しい状況下で、鴻池組には工期内の完成をお願いしました。さまざまな要望に対する臨機応変な対応や、施工の進捗状況のこまめな報告など、安心して任せることが

できました。桜木地区は多賀城市様が取り組む災害公営住宅第1号の工事として注目を集める事業でしたが、居住される方の新たな生活をサポートする建物を工期内に竣工していただきました。多忙なスケジュールではありましたが、完成した建物のベランダに洗濯物が風にたなびく姿を見たときは言葉にならず、なんとも言えない達成感を感じました。

「チームKONOIKE」の現場力



竣工に向けて何よりも大切なことは、無事故・無災害で工期内に建物を完成させることです。現場では安全意識を高揚させるために、全作業員のアイデアからスローガンを決めるなど、コミュニケーションの活性化を図り、常に同じベクトルを向いて作業ができるよう工夫しています。

また、桜木地区の施工中に大雪に見舞われた際は、地域の皆様と一緒に雪かきを実施しました。今後も近隣住民の方々への配慮はもちろん、安心安全に工事を進めて参ります。

土木

最高の現場力

みんなの想いを



大規模土砂災害における廃棄物処理

広島市災害廃棄物処理業務

早期に災害廃棄物を処理して大切な思い出の品を返却します

2014年8月20日に広島市北部を短時間の大雨が襲い、同時多発的に発生した大規模な土石流により多くの方の尊い命が奪われた甚大な土砂災害が発生しました。本業務では、市内9箇所の1次仮置場に仮置された災害廃棄物を鴻池組JVが設置した中間処理施設に運搬し、分別等の処理を行いリサイクルまたは処分を実施しています。処理量は、約58万トンを見込んでいます。中間処理施設には大型 TENT を2棟設置し、その中に廃棄物の種類毎に中間処理ゾーンを設け、岩石の破砕機や選別機械など廃棄物の処理方法に応じた機械・設備を数多く配置し、手作業を併用しながら改質・分別・破砕などの処理を行っています。TENT で処理施設を覆うことで、雨天でも継続的に大量の廃棄物を安定して処理することができます。

処理後の土砂は埋立材料、砕石は路盤材、木材はバイオマス原料、その他の処理物は固化化燃料などとしてリサイクルしており、98.9%のリサイクル率を目指しています。

本業務の大きなテーマの一つは、処理している災害廃棄物の中から被災された方々の思い出の品を見つけ出し、持ち主の方々に返却することです。発見された品は持ち主の方々の手元に戻るまで、処理施設内に設置した「思い出の品預かり所」で大切に保管しています。見つかった思い出の品は、思い出の品預かり所にて閲覧できるほか、広島市のホームページでも情報を公開しています。

鴻池組JVは廃棄物処理に係る専門の7会社で構成しており、各社の技術を最大限に発揮することで早期の処理完了を目指しています。

広島市災害廃棄物処理業務
小山 起男 所長



大規模な土砂災害。甚大な被害。我々は「早期に災害廃棄物を処理して、思い出の品を返却します」をキャッチフレーズに、職員、作業員一丸となって一日も早い処理完了を目指しています。二度とこのような災害が起きないことを願うばかりです。



処理施設全景



がれき類の中間処理



廃棄物の手選別



思い出の品預かり所

土木

最高の現場力

新しい技術で



新幹線における長距離トンネル工事

九州新幹線(西九州)、新長崎トンネル(東)他

地域環境に配慮しながら 最新技術を駆使して延長3.9kmの山岳トンネルを施工

九州新幹線西九州ルートでは、武雄温泉駅から長崎駅までの約66kmを新しく建設しています。新長崎トンネルは長崎駅のすぐ手前に位置し、延長7,460mの長大トンネルです。鴻池組JVはこのうち東側の3,870mの工事を担当しています。

この長距離トンネルでは地域環境に優しく、かつ早く安全に掘削を行なうために、最新技術を導入しています。ドリルジャンボという大型の穿孔機に全断面追尾式穿孔誘導システム「ドリルNAVI」を搭載し、発破孔の穿孔を高精度化することにより、発破による騒音と振動を抑えることが可能となりました。また、余分な掘削が減少し、施工サイクルの短縮も図れています。さらに、本機が装備する前方地質探査機能を

使った全線での探査結果に基づき、地質の不良箇所や大量湧水への事前の対策検討が可能となり、掘削作業の安全性が向上しました。

本トンネル直上には集落や田畑が点在し、地域の方々からは昔から豊富な湧水を利用して生活を営まれてきました。この湧水や沢水がトンネル掘削の影響により枯渇する恐れがあったため、その対策として、配水配管を行っています。また、地域住民の方々をはじめ、多くの方々に現場を見学していただく機会を頻繁に設けています。本工事への注目度は高く、海外の方も来場されています。今後も地域の方々のご理解を得ながら、早期の到達を目指して掘削を進めて参ります。

現川自治会 会長
金原 明善 様



2015年2月8日の見学会で最新鋭の機械や進んだ技術を目の当たりにし、町民一同安心しております。鴻池組JVから定期的に工事について説明していただき、諸問題への対応が早いので助かっています。



誘導システム付削孔機



削孔機誘導モニター



坑内覆工全景



現場見学会

環境
技術

最高の現場力

地球に優しく



地球の将来のために

海外

最高の現場力

安全な水を



サモアでのインフラ整備

サモア独立国都市水道改善計画

長年培ってきた環境技術が築く将来への安心

わが国の主要なエネルギー源である石油などの化石燃料は限りがある資源です。これに対し、太陽光、水力、バイオマスなどのエネルギーは、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーです。しかも、地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど排出することはありません。鴻池組は、地球環境に優しいクリーンな「再生可能エネルギー」の普及促進に貢献しています。

小水力発電



水土里ネット湖北-EBJ小水力発電所(滋賀県長浜市)

農業用水路の落差工を利用して10~15kW規模の流水式小水力発電装置「スモールハイドロストリーム」を設置しました。

太陽光発電



有田太陽光発電所(和歌山県有田市)

約41ha(甲子園球場約10個分)の造成地に48,290個の太陽光パネル基礎を構築しました。一般家庭約9,000世帯分の電気を供給することができます。

バイオマス発電



除染技術実証事業(環境省実証試験)

放射性セシウムを含む間伐材などをバイオマスガス化発電の原料として活用し、エネルギーとして回収するとともに汚染物の減容を図る取り組みを進めています。

海外で発揮する現場力

太平洋島しょ国の一つサモア独立国は、農業、漁業や観光業を経済の中心とする島国です。首都アピヤ市をはじめとする多くの地域では、水道水が未処理の原水のままで供給されている上、乾季中の水源水量減少、降雨時の濁水発生、高い無収水率やサイクロンをはじめ災害に対する脆弱性などの問題を抱えています。同国では水に起因する疾患の罹患率抑制のために、安全で安心な水へのアクセス向上を国家開発戦略として取り組んでいます。

日本は同国による国民生活水準向上のための取り組みを支援し、その一環となる無償援助「サモア都市水道改善計画」の工事を鴻池組が担当しています。本計画はアピヤ市内3系統の給水区整備を目的とし、そのうち2系統では導水管を含む取水施設・浄水施設の

築造および配水管までを新設、1系統では既設浄水施設から水を圧送するためのポンプ施設、配水池および配水管までを新設します。また無収水率改善のために1,280箇所配水管から宅内への給水管引き込みと水道メーター設置を行います。

本計画が完成すれば対象地域の給水人口約11,500人に安全で安心な水の供給が可能となり、健康改善および無収水率改善など同国のニーズに合った水道事業の展開につながります。

また、協会社と一体となった「チームKONOIKE」として、国有森林保護地域の環境への影響を最小限に抑える施工方法の検討や、地域住民とのコミュニケーションを通じて本計画への理解浸透を図るなど、環境・社会への影響に配慮しながら工事に取り組んでいます。

Samoa Water Authority
Engineer Officer

Katenia Juritz Rasch



日本政府無償資金協力を活用した本プロジェクトに関わる全ての皆様にサモアを代表して御礼申し上げます。サモアの水セクターには本プロジェクト施工地域以外にもまだまだ多くの課題を抱えています。その解決には豊かな経験と知識を持った日本政府並びに日本企業の協力が不可欠であると確信しております。



安全
環境

最高の現場力

循環型社会に向け



働く人にも地域の環境にも優しい配慮

より安全で、地球に優しい現場を

周りに一声、自分に対して一呼吸

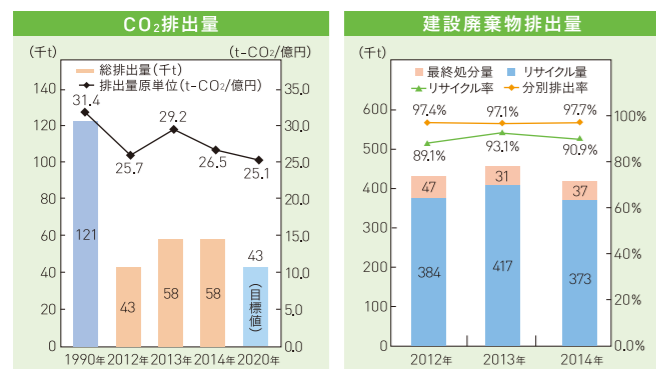
「周りに一声、自分に対して一呼吸」をスローガンに、建設業労働安全衛生マネジメントシステム(COHSMS=コスモス)に準拠した安全衛生管理を行っており、死亡災害ゼロや労働災害発生の頻度を表す度数率は0.6以内などを掲げています。

▶2014年度度数率 鴻池組:0.78、建設業:0.91、全産業:1.66
(度数率:延べ労働時間100万時間あたりの死傷者数)

環境保全と汚染の予防

環境や社会に大きな影響を与える項目は、環境マネジメントシステム(EMS)に基づく継続的改善に努め、生物多様性や地球温暖化防止などの環境保全と建設副産物削減など循環型社会の実現に取り組んでいます。

CO₂排出量は、前年比約8%減、1990年比15%減でした。また、2014年の建設廃棄物排出量は前年比約8%減でした。



マテリアルバランス

2014年の国内事業活動により発生した環境負荷や環境配慮を、マテリアルフローに表します。

INPUT			
エネルギー		グリーン調達	
電力(グリーン電力含む)	14,777千kwh	再生加熱アスファルト混合物	16,510t
軽油	9,381kl	高炉セメント	3,734t
化石燃料	175kl	生コンクリート(高炉セメント)	102,217m ³
灯油	1kl	再生材料を使用した型枠	25t
重油	1kl	盛土材等	55,083m ³
		路盤材	48,751m ³

事業活動

- 土木工事・完成工事高…791億円 / 建築工事・完成工事高…1,361億円
(会社事業年度:2014年10月1日～2015年9月30日)
- 環境保全
地球温暖化の防止…CO₂の排出抑制
省エネルギー…電力使用量の低減
循環型社会の構築…3R(リデュース・リユース・リサイクル)
公害防止…生物多様性、大気汚染、資源の枯渇、土壌・水質汚染、騒音・振動など
- 環境技術開発

OUTPUT

建設副産物		CO ₂	
建設発生土	発生量 330,831m ³ 有効利用率 86%	排出量	58,00t-CO ₂
産業廃棄物	発生量 410,246t 中間処理量 372,890t 最終処分量 37,356t リサイクル率 90% 分別排出量 400,729t 分別排出率 97% うち特別管理産業廃棄物・最終処分量 205t	排出量原単位	27t-CO ₂ /億円(施工高)

(環境省「環境報告ガイドライン2012年版」を参考)

人財

最高の現場力

最高のチーム



働きがいの向上を目指して

チームをつくり上げるメンバー強化

教育への取り組みについて

鴻池組では、経営理念の重点ターゲットである「人財創出」にむけた教育プログラムを実施しています。人財=「プロフェッショナルな人」になるための成長過程を明示することで、各人が自己の到達度とともにこれから目指すべきステップを認識し、教育に対するモチベーションアップにつなげていきます。

2015年度は相互理解の大切さへの意識を高めるために、「with COMMUNICATION」をキーワードとしました。教育においては、このキーワードをもとに基本となるOJTがより効果的に実施され、それぞれの立場での課題発見と、集合教育における課題解決につながっていくことを目指しています。

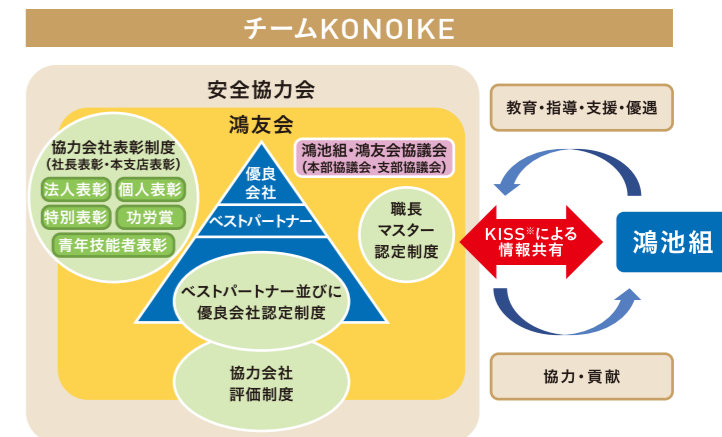


新入社員の技術基礎研修

協力会社とのパートナーシップについて

鴻池組並びに協力会社で組織する鴻友会および安全協力会は、「チームKONOIKE」として一丸となり、「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に!」をスローガンに、人々が豊かで安心して暮らせる社会の実現に取り組んでいます。

鴻池組では「職長マスター認定制度」や「協力会社表彰制度」、優秀な協力会社へ資格取得費用補助などの各種インセンティブを付与する「ベストパートナー並びに優良会社認定制度」などの各種取り組みにより「チームKONOIKE」の総合力向上を目指しています。



※KISS… 鴻友会インフォメーション・シェアリング・システム (SNSの仕組みを利用した情報共有システム)